

平成29年度 第3回がまごおり協働まちづくり会議議事要旨

日時 平成29年12月11日（月）

午後2時～4時30分

場所 蒲郡市役所新館6階601会議室

1 開会

事務局より欠席及び遅刻者の報告

2 議題

(1) 第1回・第2回会議要旨の確認（別紙1、別紙2）

特に第2回の要旨について、事務局より口答説明。

(2) 今年度のモデル事業について（別添）

まちづくりセンターより拾石地区の活動について、用紙を用いて反省点を紹介
〈反省点要約〉

- ・“地域主体の防災づくり”という目的が関係者の間で共有出来ていなかった。
- ・情報の共有が難しいと感じた。
- ・実行委員会では、地域で議論することに慣れていないため、みんなの意見を引き出すためのファシリテーターが必要と感じた。
- ・まちづくりセンターが実行委員会にもっと関与すべきと感じた。
- ・避難所開設訓練では、提案者自らが動く雰囲気を作る雰囲気が必要と感じた。

〈委員からの意見〉

- ・拾石地区は以前から防災活動に力を入れており、その流れの中で継続して活動をしている。そのため、今年度モデル事業として実施しているということを認識している市民は少ないように感じる。
- ・まちづくりセンターとして、今後の反省点ばかりをあげているが良かった点もたくさんあるはず。そのことを公表して、今後取り組むところが参考にできればよい。

(3) 来年度モデル事業（案）について

早川委員より、解決すべきことを説明

〈意見要約〉

- ・縦割りの中では、できないことがたくさんある。まちづくりはできることがある。
- ・担当課だけで考えるのではなく、全体で“子供が少ない”という認識で取り組むべき。

(ア) 行政提案型について（別添）

〈委員からの意見〉

- ・農業の婚活支援は現在の働き方から理に叶っていない。
- ・若い世代に定住してもらうには、仕事が充実することが必要。そのためには、市内企

業の魅力の中、高校生に伝えることが一番の近道。今住んでいる人を留めるような工夫をすべき。

- ・各課からのヒアリングもよいが、本当に必要なことを市民とすり合わせること。
- ・どこも次の担い手探しに苦勞している。

(イ) 人材育成のための連続講座開催について (別添)

〈委員からの意見〉

- ・パワーの溢れている高齢者を担い手として、参加してもらうのがよい。
- ・モデル事業の趣旨を確認する必要がある。→事務局より説明
- ・いろいろな知識を持った人の講座を開いたりするとよい。65歳以上の経験を活かしたら面白いと思う。

(4) 助成金事業募集要項について (別紙5)

事務局より説明

- ・応募期限をはじめの一步部門は2月2日(金)、ほとぼしる情熱支援部門を1月26日(金)とすることで承認。
- ・前回の第2回まちづくり会議において決定された事項について確認をし、再度承認《プランコンテストの開催について》

平成29年9月実施の「第1回蒲郡地域活性化プランコンテスト」について事務局より説明

- ・市内の大学生から鯖江市のプランコンテストを参考にして、蒲郡でもコンテストを開催したいと提案があった。加えて、実施に係る費用においてははじめの一步部門での助成金申請があった。
- ・プランをたてて実施することで助成金制度は成り立っている。今回のようにプランを建てる決定過程には、助成金というかたちではなく、歩み寄ってサポートをすることが望ましいと判断をした。
- ・平成30年度の採択においても、プランコンテストは同じ対応で良いか。

〈委員からの意見〉

- ・コンテストの開催が公共性等に該当しているのであれば、採択の案として候補に挙げるべき。
- ・若者がまちづくりをする機会がほとんどない。こちらから仕掛けたとしても、今回のように主になって動くことは少ない。人材育成としてはいいように思う。
- ・エントリー自体は認めても良いのではないか。ただし、審査はしっかりと行うべき。
- ・開催した場合はコンテストの中身について、市は関与しないほうがよい。
- ・要項の記載は、原案の通りでよい。

(5) その他

(ア) まちづくり賞について

(イ) 次回開催時期について 次回開催は、2月9日(金)午後2時～ 202会議室

(エ) 賀詞交歓会について